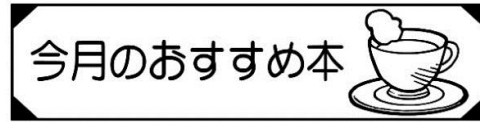




図書だより 1月号

2018年 1月発行
陸合中学校 図書室
学校司書 川瀬

正月は、新しい1年の幸せや豊作をもたらす「年神様」をお迎えする大きな行事です。昔から1年の行事の中でもとくに盛大におこなわれ、現在でもいろいろな慣習が残っていますので、由来など本で調べてみるのもいいですね。



〈1月2日／書き初め〉

『教えて先生！書のきほん』 『墨』編集部・編／芸術新聞社 (分類番号:728)

難解に思われる書の世界ですが、人気イラストレーター川口澄子さんによる、キャラクター「こすみちゃん」がゆるく解きほぐしてくれます。書に関わる人のみならず、日本文化の根源ともいえる「書」の世界を知る教養書としても読めます。



〈1月12日／スキーの日〉

『疾風ロンド』 東野圭吾／実業之日本社文庫

(新着図書、分類番号:913)

「雪が解け、気温が上昇すると散乱する生物兵器を埋めた」と脅迫してきた犯人が事故死してしまった。回収を命じられた研究員は、息子とともにあるスキー場へ向う。だが予想外の出来事が、次々と彼等を襲う。ラスト1ページまで気が抜けない娯楽快作。

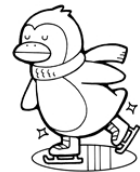
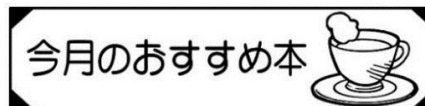
〈1月22日／カレーの日〉

『カレーライスの誕生』

小菅桂子／講談社 (分類番号:383)

インドに生まれ、イギリスを経て、幕末日本に入ってきたカレー。その受容と変容は、近代における西洋文明の受容と、日本風アレンジの歴史そのものだった。カレーに秘められた人々の知恵と苦闘のドラマを描く、異色の食文化史。

朝読&うちとく



『脱ネット・スマホ中毒』

遠藤美季／誠文堂新光社 (新着図書、分類番号:493)

中高生に広がる携帯・スマホ依存、パートナー間のネット依存、仮想世界に生きるオンラインゲーム依存…。なぜハマるのか、どうすれば抜け出せるのかを会話形式で解説。マンガ事例、書き込み式のセルフチェックなども掲載。

新着図書を紹介

『井伊直虎 一民を守った女城主ー』

時海結以／小学館ジュニア文庫 （分類番号:289）

後継ぎの男子が次々命を落とし、お家断絶の危機に立たされていた井伊一族。ひとり残った姫は、名を直虎(なおとら)と変え、男として生きることを決意した。乱世を生きぬいた戦国女子、井伊直虎の物語。

『鎌倉謎解き街歩き 一知れば楽しい古都散策ー』

原田寛／実業之日本社 （分類番号:291）

鎌倉のガイドブックを最初に作ったのは水戸黄門！？有名寺社の由緒や伝説、授業で習った源氏や鎌倉時代の歴史には意外な真実がいっぱい。「知っているつもりで知らなかった」鎌倉の、一步深い知識を補うおさんぽの副読本。

『まんがでわかる 地頭力を鍛える』

細谷功／東洋経済新報社 （分類番号:336）

ビジネスプロフェッショナルに求められる本当の頭のよさ「地頭力」。その本質である、「結論から」「全体から」「単純に」考える3つの思考力を鍛える方法を、ストーリー漫画とともに紹介する。

『ざんねないきもの事典』

今泉忠明／高橋書店 （分類番号:480）

「クジャクの羽は長すぎてじゃま」「サイの角はただのいぼ」「イルカは眠るとおぼれる」。進化の結果、なぜかちょっと残念な感じになってしまった生き物たちを、楽しいイラストとともに紹介します。

『990円のジーンズがつくられるのはなぜ？』

長田華子／合同出版 （分類番号:589）

中国に次ぐ世界第2位の衣料品輸出国、バングラデシュ。だがその労働環境は劣悪なまま。縫製産業で働く女性たちの経済状況、彼女たちを取り巻く社会や家庭内のさまざまな問題を調査し、グローバル化した世界の現実を考える。

『猫と幽霊と日曜日の革命 サクラダリセット1』 河野裕／KADOKAWA

（分類番号:913）

シリーズ第1巻。「リセット」という一言で、世界は、三日分死ぬ…。能力者が集う街、咲良田(さくらだ)に生きる時間を巻き戻す少女・美空と、記憶を保持する少年・ケイ。繰り返す日常は、若者たちに何をもたらすのか!?

